



No. 36

平成28年8月31日
発行 多治見市教育研究所

URL

<http://school.city.tajimi.lg.jp/kyoiku/>
本誌は、多治見市教育研究所ホームページ上でもご覧いただけます。



「知」と「術」と

多治見市教育委員会 教育次長 鈴木稔朗



私は、生まれも育ちも多治見市内です。生家は土岐川にほど近い、商店街の外れでした。

私の育った1960年代は高度経済成長の真っ盛りで、町内には多くの商店がありました。薬局、酒屋、瓦屋、八百屋、医院、レコード店、宝飾店、旅館、パン屋、時計店、喫茶店、文具店、美容室、洋品店、仕立屋、花屋、菓子店、甘味処、荒物屋。町内を一步も出なくとも生活のほとんどがまかなえる、強力なコミュニティでした。町内の神事、子ども会などの行事、親に連れられての買い物等を通じて、子どもたちの顔は全町内に知れ渡ります。私がどこの家の誰で、どんな育ち方をしているか、町内の何百人もの大人にはすべて把握されていました。

「おはよう」「お帰り」「どこ行くの」「何やっとなるの」「ほんなどこ入ってかん」

登下校は勿論、遊びの行き帰りの道々で、駄菓子屋で、大人たちからシャワーのように声をかけられることは、子どもにとってごく当たり前の日常でした。町内を遠く離れた場所で悪さをしていたのを、いつの間にか見とがめられ、親に告げられて叱られたことも一度や二度ではありません。近所で遊んでいるときは、ほっとしましたが、少しだけ気が張りました。地域というネットワークの中で守られているという安心感と、いつも見られているのだからいい加減なことではできないという緊張感を、子どもなりに感じていたのだと思います。「世間様に顔向けできん」「ご近所様に迷惑や」親に叱られるときのこんな言い回しを、ごく自然に理解

できる土壌がありました。

近所には同世代の子どもたちがたくさんおり、学校から帰るとランドセルを放り出して遊びに行ったものでした。魚釣り、空地での三角ベースや鬼ごっこ、虫取り。「〇〇くーん、あ・そ・ぼ！」と節を付けておとないを告げる友達の家への訪問、山と積まれた陶器の箱の隙間で行うかくれんぼ。遊びのアイディアも、それを通して学んだことも無限で豊かでした。けんかをすればつまらないこと、年下の子、運動の苦手な子や立場のよわい子には配慮したほうが結局みんなが楽しいこと、ずるいことをすると非難されること、「ゼッコウ（絶交）」は、してもされても本当につらいこと、素直に謝ればたいていは和解できること、長い諍いの末に仲直りすると、空の色までちがって見えること。

地域の大人や同世代の仲間との関わりは、学校で学んだ「知」を実践する場でした。子どもながら、一人の人間としての生き方を常に問われ続けることで、私たちは、折り合う力、責任感、自律力、思いやりといった、生きていく上で大切な「術（すべ）」を体得しました。

今、子どもを取り巻く社会は、往時とは様々なに異なりました。しかし、地域の信託に応え、真に子どもたちの幸福に資する教育を実現するという学校の使命は変わりません。あくまで子どもたちに軸足を置き、市内771名の全ての教職員の皆様と、また保護者や地域及び関係機関の皆様と共に、学校が、私たちが伝えるべき知と術とを求め続けようと決意しています。

土曜学習「わがまち 多治見 大好き講座

土曜学習「わがまち 多治見大好き講座」は、平成28年度も「多治見に愛着をもち、誇りに思う大人に育ってほしい」という願いのもと、9回を予定し、スタートしました。

今年は、新たに退職教員サポーターと中学生ボランティアの募集をし、第一期は、退職教員3名、中学生43名に、講座開催を助けてもらいました。

5月の「多治見修道院」の学習では、神父様のお話を聞いたり、パイプオルガンの演奏を聞いたり、教会の方の案内で庭園や大聖堂の見学をしたりしました。大聖堂では、2階にもあがらせてもらい、パイプの振動が感じられるほど間近な所で、オルガンの音色を聴くことができました。

見学の後、絵手紙に挑戦し、思い思いの場所で写生をしました。絵画指導には、現職・退職合わせて8名もの美術科の先生方に講師としてアドバイスをいただきました。暑い日でしたが、子どもたちは熱心に取り組み、すてきなスケッチがたくさん生まれました。中学生ボランティアには受付やグループリーダーをもらい、安心して講座をすすめることができました。



6月は、多治見市美濃焼ミュージアムと多治見市陶磁器意匠研究所の二ヶ所で開催しました。美濃焼ミュージアムでは、400年前の陶片に実際に触れ、「器革命」と言われる桃山陶の特徴や一度は消えてしまった桃山の陶工の技術がどのように復元されたかを学びました。茶室では、美濃焼の茶碗で抹茶をいただく体験もしました。

意匠研究所にはバスで移動し、ろくろを使っ

た陶器づくりと施設見学をしました。難しい電動ろくろでの作陶でしたが、研究所の先生方に教えていただき、全員が見事に完成させました。研究所内の見学もさせてもらい、現代の美濃焼作品や普段は見られないめずらしい機械を見て回りました。

この講座でも中学生ボランティアに受付やグループリーダーの仕事を頼みました。意匠研究所では、ろくろや板についての粘土を一つ一つ雑巾で落とす仕事も手伝ってもらいました。



大変な仕事にもかかわらず、気持ちよく動く姿をありがたく思いました。

7月は、笠原で多治見の主産業の一つであるタイルの学習をしました。

カネキ製陶所では、タイルの製造工程を教えてくださいました。実際に工場内を見学しました。原料や作りかけの製品をさわらせてもらったり、製品が次々と作られる様子を手を伸ばせば届く近さで見せてもらったりしました。初めて知ったことや驚くことがたくさんあり、不良品を見分ける工程では、「私では分からないはずをすばやく見つけていてすごい」などの声が聞かれました。

モザイクタイルミュージアムでは、タイルの歴史や使われ方を教えていただきながら館内の展示を見たり、貼り子さんによるタイルの貼り加工の様子を見せてもらったりしました。貼り加工の工程の一部の体験もしました。タイルを枠に入れて並べひっくり返すという作業は初めてのことで、「むずかしかったけれど楽しかった」と、多くの子の心に残ったようです。ここでは、多治見観光ボランティアガイドの方々にも大変お世話になりました。

第一期の土曜学習は、合わせて458名の申し込みがあり、224名の児童・生徒が受講しました。今回も、様々な方々に講師をお願いし、各学校にも、大変なご協力をいただきました。ありがとうございました。

わたしの主張 2016を 開催しました！

6月25日、「わたしの主張2016」が、笠原中央公民館アザレアホールを会場として開催されました。今年も、小・中学校の代表26名が、多くの聴衆を前に、自信をもって堂々と発表をしました。

26人の児童・生徒が選んだテーマは様々であり、大変興味深いものでした。地域のこと、共に生きるということ、平和について、環境に関わること等、小・中学生ならではの新鮮な感覚で、広く、深く周囲を見つめ、気づき、考えたことを述べました。周りの人を思いやったり、将来を展望したりして、前向きに自分の生き方を切り拓いてこうとする強い姿勢や決意もありました。

児童・生徒の主張は、私たちによりよい社会にするために「自分ができること」を考える機会を与えてくれました。

【審査結果】

◎最優秀賞

- 「自閉症の弟をもって」
小泉小学校 市原 佳朋 さん
- 「平和をつなげるために」
小泉中学校 小木曾 沙奈 さん

◎優秀賞

- 「あいさつっていいな」
昭和小学校 熊谷 悠希 さん
- 「絵本のみ力 伝えます」
精華小学校 伊藤 葵 さん
- 「十五歳の私」
笠原中学校 水野 愛梨 さん
- 「子どもの権利」
平和中学校 山岸 日菜 さん

◎社会を明るくする運動賞

- 「地しんから学んだボランティア」
南姫小学校 清水 萌花 さん
- 「感謝の気持ちを伝えるには」
南ヶ丘中学校 坂井 泰智 さん

中学生の部で多治見市の代表となった、小泉中学校の小木曾沙奈さんは、東濃地区選考において、東濃地区最優秀賞に選出され、第38回少年の主張県大会に出場されました。



練習の成果を発揮し、堂々と話すことができました。

第20回 連合生徒会交流会

8月8、9日に、第20回連合生徒会交流会がありました。市内8校の生徒会役員延べ37名が参加しました。

今年は、各校の取組や課題と考えていることを交流することに加え、色々な方からのお話を聞き、見方や考え方を広げることもねらいとして行われました。

1日目は、東信学びの丘“エール”に集まり、開会式を行いました。西尾英子教育委員長の話を聞き、「同じ釜の飯を食う。」という言葉から、この2日間を共に過ごす意味について考えました。

東濃高校古木増美先生による“仲間づくり”をテーマにしたワークショップで緊張感もほぐれ、今回のテーマである「思いやりある学校づくりに向かう生徒会」について、各校の取組を交流しました。活発な意見交流が行われました。

その後、古川雅典多治見市長との懇談会がありました。古川市長の質問に答えながら、生徒会の役割を確かめました。

場所を地球村に移し、夕食を食べ、夜も、今後のテーマについて交流しました。



2日目は、木下貴子弁護士からお話を頂きました。次回テーマ「関わりを大切にしたい学校づくりに向かう生徒会」に込めた、「互いに認め合うことを大切にしたい」という願いを、後押しして下さるお話でした。

この2日間を通して「他校と交流を深め、他校の活動の工夫を自分の学校に取り入れられるのでよかった。」という感想がありました。

この経験が、今後の生徒会活動の糧となることを願っています。

最後になりましたが、この交流会を支えてくださった方々に感謝したいと思います。ありがとうございました。

初任者研修「多治見市の方針と重点」「地域防災研修」

今年度、多治見市で教師生活をスタートさせ、初任者研修を受ける先生は、7名（中学校教諭5名、小学校教諭2名）です。

地域を知り、地域との連携についての知見を得るために、年間4回の多治見市初任者研修を行います。

これまでに行った第1回、第2回の様子について紹介します。

第1回【多治見市の方針と重点】4月26日 《ねらい》

多治見市の教育の方針と重点を理解する。

《内容》

- 1, 市長講話
- 2, 教育長講話
- 3, 多治見市の教育の重点と方針
(研究所長より)
- 4, 脳活学習研修
- 5, 生徒指導研修
- 6, 特別支援教育研修

色々な方面から話を聞き、多治見市の教育についての理解を深める研修となりました。

《初任者の感想より》

脳活学習、スキルアップ学習についての研修を受けた。授業前や朝の時間で集中する時間をつくるのは、とても有効な手立てであると感じた。(陶都中 小林)

古川市長の話を知ることができ大変有意義な時間となった。市長さんは、目標が明確であり、エネルギーを感じた。私も目標を大切にし、エネルギーのある社会人になりたいと思う。(多治見中 前山)

今回の研修を通して、「多治見市をこうしたい。」という願いや多治見市の魅力を感じることができた。「自分自身が多治見市を知る」重要性を実感した。(小泉中 田部井)

多くのことを知り、考えることができ、早く実践したいという意欲が湧いてきた。何か新しいことを見つけ、子どもたちと共に最大限の成長をしていきたい。(精華小 小栗)



第2回【地域防災研修】7月25日 《ねらい》

普通救命講習、地域防災を理解する。

《内容》

- 1, 普通救命講習
- 2, 地域防災研修
 - ・市内暴風時危険箇所視察
 - ・防災倉庫見学
 - ・災害時図上訓練D I Gを用いた研修

これらの研修は、南消防署職員の方、多治見市企画防災課の方に協力して頂き、行いました。児童・生徒の命を守るためには、地域を知る必要があることを学びました。

《初任者の感想より》

多治見市がかつて大変な水害に遭っていたことを知った。教師として、生徒を安全に避難をさせるためにも、私自身が多治見の地形についてしっかり知っておかなければと思った。(陶都中 蓑)

「私は人が倒れたときに、とっさに救命措置をとることができるだろうか。」と自分自身に問いかけてみた。生徒の命を守ることができるよう、救命救急についてもっと深く考えたいと思った。(平和中 田崎)

平成23年台風15号の災害時の水位や、危険箇所を視察した。災害の怖さを実感した。危険箇所を把握することが、災害時に適切に対応するポイントとなると思った。

(南姫小 堀部)

教師として歩みはじめて①

「3か月で学んだこと」



陶都中学校 小林 亮祐

教員として歩み始め、あっという間に7月になりました。初めて陶都中学校を訪れたときや、初めて授業をしたときは、本当に緊張しました。それから、早くも3か月が経ちましたが、毎日悩んでばかりです。そんな悩みを解決するための方法として、私が学んだことがあります。

とにかく「聞く」ことです。例えば、授業について、どのように進めていけばよいのかをよく悩みます。初めは、様々な指導案を見ながら自分で考えていくべきだと思っていました。しかし、先輩の先生に、とにかくベテランの教科の先生に聞くことが大事だと言われました。言われるがまま聞いてみると、とても親切に聞いてくださり、自分が悩んでいたことが解決しました。一人で抱え込まず、聞くことの大切さがよく分かりました。また、聞く前は、お忙しい中こんなこと聞きに行ってもよいのだろうか、という気持ちもありました。そんな気持ちを吹き飛ばすかのように、温かく答えてくださり、とても嬉しく、安心しました。そんな素晴らしい先生方と職場に出会えたことに、感謝したいです。まだまだ足りていない力がたくさんあると感じています。色々なことを「聞き」、自分の力を伸ばしていきたいと思っています。

私が日々気づかされていることは、「生徒との信頼関係の大切さ」です。3年生の副担任の立場から、これまで学年を持ち上がってこられた先輩の先生方を見てみると、そう強く感じます。1年生の時から少しずつ成長していく様子をいつも見守り、認め、時には厳しく指導されてきたからこそ信頼関係が築けるのだと思いました。

また、褒めたり叱ったりするだけではなく、普段から学校が家庭と連携して生徒に寄り添うことが大切だと教えていただきました。その教えから、「今よりもより高みにある姿になってほしい」というあたたかい愛情と信念が教師には重要なのだと分かりました。私も先生方の姿から見て学び、自ら動き、生徒に寄り添うあたたかさや厳しさをもつ教師になりたいと思います。つまづくこともあると思いますが、まずは懸命に生徒に向き合うことから始めていきます。

「生徒に寄り添う」



陶都中学校 菱 梨絵

憧れていた美術教師として赴任して3か月が経とうとしています。毎日が慌ただしく過ぎていきますが、その一日一日がとても充実していて、大切なものとなっています。

私が日々気づかされていることは、「生徒との信頼関係の大切さ」です。3年生の副担任の立場から、これまで学年を持ち上がってこられた先輩の先生方を見てみると、そう強く感じます。1年生の時から少しずつ成長していく様子をいつも見守り、認め、時には厳しく指導されてきたからこそ信頼関係が築けるのだと思いました。

また、褒めたり叱ったりするだけではなく、普段から学校が家庭と連携して生徒に寄り添うことが大切だと教えていただきました。その教えから、「今よりもより高みにある姿になってほしい」というあたたかい愛情と信念が教師には重要なのだと分かりました。私も先生方の姿から見て学び、自ら動き、生徒に寄り添うあたたかさや厳しさをもつ教師になりたいと思います。つまづくこともあると思いますが、まずは懸命に生徒に向き合うことから始めていきます。

「3か月を振り返って」



多治見中学校 前山 卓也

教員になって3か月になりました。教材研究や部活指導など分からないことがばかりです。しかし、周りの先輩方が親切なご指導をしてくださ

り、とても充実した日々を過ごせていることに感謝しています。先輩方によって徐々に生徒のために何が大切なのかを考えることができるようになってきたと思います。その先輩方に早く追いつき、追い越せるようにがんばりたいです。

私は常に学び続けることと、情熱を持ち続けることが出来る教員になりたいと思います。

生徒に対して指導するということは、指導する内容を理解し伝えるのではなく、その周りのことも考えた上で指導が成立すると思っているので常に学び続けていきたいです。また、周りの先輩方は手を抜かず生徒のためという一心で仕事をされています。その姿を見て、気持ちだけは先輩方と同様に必ず持ち続けて日々成長していきたいと思っています。

「1年間で身に付けたい資質」



平和中学校 田崎 みのり

辞令交付式の後、わくわくした気持ちで校門をくぐったことを、昨日のこのように思い出します。それくらい教員になってからの3か月はあっという間でした。毎日成長する生徒や、

めまぐるしい学校の動きに戸惑うこともあります。しかし、丁寧に相談に乗ってくださる先輩の先生方や、生徒の笑顔に支えられて、よい教員生活のスタートを切れたと感じています。

教員として授業を行ってみて、自分自身の課題だと感じていることがあります。それは授業の導入の在り方です。導入が上手くいくと授業の流れがスムーズになり、すべきことが明確ではない時間は生徒の興味を薄れさせるということに気が付きました。そのため、生徒の身近にある事柄から導入を始めた、生徒の言葉から課題を提示したりするなどの工夫をしています。まだ上手くはいきませんが、生徒が楽しそうに授業に取り組む姿を想像して教材研究をしたり、先生方にアドバイスをいただいたりしながら、授業力を高める1年間にしたいと思います。

教師として歩みはじめて②

「生徒と共に成長した3か月」

小泉中学校 田部井 由博



小泉中学校に赴任して早3か月が過ぎました。思い返すと、4月からこの3か月は子ども達の成長と共に、自分自身の成長につながった期間だったと思います。日々の授業や学級経営、各研修などに参加し、その度、さまざまな壁にぶつかりましたが、そんな時こそ自分の成長への可能性を信じて、それが将来的に子どもへの成長につながると信じて過ごすことができました。今の自分を作り上げてくれたのはご指導賜っている諸先生方だけではなく、まぎれもなく目の前にいる子ども達のおかげです。

4月から今まで、たくさん失敗をしました。日々、指導のあり方について試行錯誤の連続です。しかし、私の話を真剣に聞く生徒の姿や表情、日々の生活記録ノートに書かれている感想など、子ども達の素直な態度に何度も救われ、励みになりました。これからもたくさんの失敗から多くのことを学び、貴重な財産として蓄積し、多治見市教育に還元できればと思っています。

「先生と呼ばれるようになって」

南姫小学校 堀部 磨衣美



「先生」と呼ばれるようになって、3か月が経ちました。子ども達からだけでなく、職場の方からも、保護者や地域の方からも「先生」と呼ばれることにくすぐったさを感じています。その反面、「先生」であることの責任の重さも日々痛感しています。子ども達にとってかけがえのない1時間の授業をどう展開するのか、子ども達の安全を確保するために必要なことは何かなど、考えなければならないことはたくさんあります。その責任を果たすべく、周りの先生方に学びながら、自分にできる限りのことを全力でやろうと思っています。

また私は、学校生活を送る中で、授業中だけでなく、休み時間は一緒に遊び、掃除では子どもと一緒に掃除するように心がけています。そうすることで、その時々感情が共有できる気がするからです。またそれは児童理解につながると考えています。時間が限られており、なかなかできていないのが現状ですが、子ども達に少しでも近い存在になれるよう、これからも心がけていきます。

「感謝」

精華小学校 小栗 彩夏



教師になって3か月。一番感じることは感謝の気持ちです。私は多治見市で生まれ育ち、多治見市で教師になることができました。私を育ててくださった先生方や親への感謝の気持ちを胸に春を迎えました。

子どもたちと出会った日、私が担任と知った子どもの「やったー。」という反応が嬉しかったです。そして今日まで、私の慣れない授業や学級経営の中でも思いをくみ取ってどんどん成長する子どもたちに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

学校が始まってから、学級開き、授業参観、家庭訪問、校外授業、研修での公開授業など初めてのことしかない状況で右も左も分からない毎日でした。乗り越えることができたのは、一から丁寧に指導して下さる先生方のおかげです。先生方はみなとても熱心で、その姿から学ぶことも、教えて下さることも毎日全てが勉強です。精華小学校で先生としていられることが幸せです。ありがとうございます。

毎日、明日が楽しみです。

お知らせ

平成28年度第60回 多治見市科学作品展

日時：平成28年9月3日（土）～

9月4日（日）

午前9時～午後5時まで

場所：パロー文化ホール 展示室

多治見市21校の小中学生の皆さんが、夏休みに取り組んだ科学作品の展示会です。

各校の最優秀作品が展示されますので、是非、ご覧になってください。

多治見市
科学作品展



